

インフルエンザワクチン

あれほど暑かった夏が過ぎたと思ったら、もうインフルエンザワクチン接種の時期が来ました。

今回は、インフルエンザワクチンに関して解説します。



インフルエンザワクチンとは？

インフルエンザウイルスは、HA（ヘマグルチニン）という服を着ています。この服を脱がしてしまうと、インフルエンザウイルスは死んでしまうので、このHAに対する抗体ができれば良いわけです。

ワクチンは、鶏卵を使って流行を予測されたウイルスを培養し、そのウイルスを化学処理して、HAだけを取り出します。ウイルス本体は入っていないので、不活化インフルエンザHAワクチンと呼ばれます。よく、「インフルエンザワクチンを打ったら、インフルエンザにかかって大変だった」と言われる方がありますが、それは、たまたま他の風邪に罹っただけで、ワクチンのせいではありません。

また、ワクチンには、近年流行している、A香港型とA新型のA型2種に、B型の山形系統とビクトリア系統のB型2種の、計4種が入っています。



接種時期は？

ワクチンを接種すると、2週間ほどで抗体ができます。そして抗体は6カ月ほど続くといわれています。インフルエンザの流行期は、一般的には12月～3月ですから、11月中、遅くとも12月初旬に接種しておけば流行に間に合います。

有効性は？

インフルエンザワクチンは、感染を抑えるわけではありません。「感染しても、発症を抑える」、「発症しても、重症化を抑える」ということを目的としています。

ワクチンの有効率は、その年に流行するウイルスの型と、ワクチンの型が一致するかどうかで変動しますが、60%くらいといわれています。ただし、有効率60%とは、「ワクチン接種をした人が60%発症を防げる」ということではなくて、「接種せずにインフルエンザを発症した人に、もし接種していれば60%は発症が防がれた」という意味になります。

接種すべきかどうか？

先ほども述べたように、インフルエンザワクチンは、重症化を防ぐのを主体にしているわけですから、小児、65歳以上の高齢者や慢性疾患を有する方のように、免疫力が低い方は積極的に接種すべきと考えます。その他に、病院などの医療機関や学校など、インフルエンザに罹りやすい職場に勤務されている方も、積極的接種の対象になります。

では、それ以外の方はどうするか？

免疫力がある健康成人で、インフルエンザに罹っても仕事が自由に休める方は、罹患すると大変な苦痛を味わいますが、死に至ることはまず無いので、どちらでも良いと思います。

インフルエンザワクチンの有効性については、賛否両論がありますが、現段階でワクチン以外に予防法が無いのですから、仕方がありません。ワクチン接種をせずにインフルエンザに罹患して、「休めないから何とかしてください」は駄目ですよ。

これは私見ですが、昨シーズンにインフルエンザに罹患した方で、ワクチンを接種していた方は、そうでない方に比べて、明らかに症状は軽かったですね。

昨シーズンは、日本に4社しかないワクチン製造メーカーの1社が、製造に失敗したために、ワクチン流通量が減ってしまい、大変ご迷惑をお掛けしましたが、今シーズンは大丈夫なようです。



